

天満*天神 繁昌亭

一. 繁昌亭とは

大阪市北区天神橋2丁目にある寄席。上方落語唯一の定席(常設寄席)で、落語を中心に、漫才、俗曲などの色物芸が毎日多数執り行われている。通常は昼、夜の2公演。朝公演日もあり、昨年「深夜寄席」も始まった。

二. 歴史

元々は天神橋筋商店街で落語会を開く予定だったが、打ち合わせをしていくうちに定席の寄席話が持ち上がり、大阪大空襲後60年間上方落語には無かった定席が開設されることになった。2005年12月1日に着工、2006年9月15日開席。「繁昌亭」の名前は、6代目笑福亭松鶴の発案により千里中央のセルシーホールで上方落語協会が主催していた落語席「千里繁昌亭」に由来する。用地は大阪天満宮の寺井種伯宮司の好意により、無料で提供された。建設費約2億4000万円は個人や企業からの寄付金で賄われた。

三. 設備

地上鉄筋3階建、延床面積589.93㎡。座席は1、2階の216席。設計者は狩野忠正建築研究所、施工者は銭高組。

劇場内外の天井には、募金をした人々の名前や団体約4,500件分の名前の書かれた提灯が並べられている。舞台はヒノキづくりで、高座の膝隠(ひざかくし)は、5代目桂文枝が使っていた物を用いている。また、舞台正面上部に掲げられている額の字「楽」は、明治時代に大阪府船場淡路町にあった「桂派」の寄席「幾代亭」の額の字「楽」に由来する。この額の字は3代目桂米朝による直筆である。

四. 大阪落語の歴史

1700年代、元禄時代に京の露の五郎兵衛、大阪の米沢彦八、享保時代に京の二代目米沢彦八が現われ、そうした流れの中で上方落語が完成していったが、1800年頃、大阪に桂派の祖・桂文治が出て上方落語中興の祖となった。大阪坐摩神社境内に寄席を持ち、芝居はなしを得意に演じたといわれている。文治から多くの弟子が輩出し、桂を名乗る噺家が江戸と上方の両地で活躍、落語の隆盛を導くことになった。幕末の桂文枝は名人といわれ、門下の桂文三・桂文之助・桂文都・桂文団治の四天王が明治の全盛時代を築いた。船場淡路町の「幾代亭」は文枝ら桂派の定席の一つで、床の間や違い棚を備え、大阪一の席といわれた。一方の三友派は平野町や松屋町の「此花館」、法善寺の「紅梅亭」などを定席とし、色物入りの賑やかな高座で対抗した。明治末年に名人が相次いで物故、落語界は分裂状態となったが、大正時代になって吉本興業が完全に制覇、市中の寄席の大半は吉本の経営に移った。昭和9年、名人桂春団治が没した後、同年2代目春団治の襲名、翌10年5代目笑福亭松鶴の襲名があったが、時代の好みは漫才に移り、落語を取巻く状況は徐々に厳しくなる。次代の松鶴・米朝・文枝・春団治の活躍で再び大阪落語が活力を取戻したのは、昭和30年以降のことである。

五. 繁昌亭の10年

2006年9月に開場した繁昌亭は10年を経過している。累計入場者数は138万人を超える。2008年のNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」効果で年間169,800人に達した。この5年は12~13万人で推移しているが、集客では、浅草演芸ホールの11万人(15年)に劣らない。落語家の数も3割増加し250人を超えた。入門者の増加につれ、1人あたりの出演回数は減少したため、桂文枝さんらによる「出演機会をふやそう」と「第2の繁昌亭」構想が打ち出され、神戸市兵庫区の地元NPOや、県、神戸市などによる神戸新開地に建設が決まっている。2017年度中の着工、2018年春オープンを目指す。

六. 2月25日昼席

*出演者(入門年「師匠」)

笑福亭 智六 (しょうふくてい ちろく) (平成19年「笑福亭仁智」仁鶴の孫弟子にあたる)

神戸市出身、姫路獨協大学英語学科卒業5年のサラリーマン生活後入門。地域で密着し上方落語の普及に努める。

桂 福丸 (かつら ふくまる) (平成19年「桂福団治」春団治の孫弟子にあたる)

神戸市出身、灘高卒業後京都大学法学部に進学。2001年卒業。卒業後は英語落語を学びアメリカ公演も行う。平成23年第1回繁昌亭ドリームシャンボコンテスト小枝杯7Rチャンピオン。2014年4月に自身の体験を下にしたビジネス書「怒られカ〜新社会人は打たれてナンボ! (明治書院)」を出版。企業の新人研修に使用される。

桂 三扇 (かつら さんせん) (平成4年「六代目桂文枝」)

京都府福知山市出身。甲南女子大学文学部卒業。平成25年第8回繁昌亭創作賞受賞。「小さな体で大きな仕事」をキャッチフレーズに、露の都、桂あやめに次ぐママさん落語家として、司会・講演でも活躍中。

笑福亭 鶴松 (しょうふくてい つるまつ) (昭和57年「笑福亭松鶴」)

寝屋川市出身。府立枚方西高校卒業。趣味/アロハシャツ収集。特技/珠算2級。ファミコンソフト「ゴルフーナメント」、「ハウス麦茶」などのCMにも出演。

桂 坊枝 (かつら ぼうし) (昭和58年「五代目桂文枝」)

大阪市旭区出身。府立茨田高校卒業。神戸学院大学法学部卒業後。昭和63年ABC漫才落語新人コンクール新人賞受賞。坊枝は「帽子」に由来する。文枝一門のキャップ(キャプテン)として活躍できるよう名付けられた。

桂米輔 (かつらよねすけ) (昭和45年「桂米朝」)

大阪市住之江区出身。府立茨木高校卒業。趣味/古典芸能鑑賞、スポーツ観戦(以前は草野球をしていた)、宴会、川柳。特技/横笛、三味線、長唄。

桂福矢 (かつらふくや) (平成6年「桂福団治」春団治の孫弟子にあたる)

和歌山市出身。和歌山県立吉備高校卒業。趣味/歴史小説(司馬遼太郎)。主な会は「文華・福矢、阿か枝三人会」「夕陽丘寄席」。

笑福亭松枝 (しょうふくていしょうし) (昭和44年「笑福亭松鶴」)

貝塚市出身。府立岸和田高校卒業。平成11年文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。学生時代に深夜ラジオに熱中し高校卒業後実家の近所だった松鶴に入門。趣味/俳句・川柳/NPO法人上方落語支援の会代表。古典をはじめ、人権・教育・男女共同参画などの新しいテーマを織りまぜて話す。